

Hem21

NEWS

財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **20** 平成22年
(2010) 3月

CONTENTS

- 1~2 ▶ 平成22年度予算
平成22年度研究テーマ
- 3 ▶ 今年度のひょうご講座、21世紀文明
研究セミナーの開催結果について
- 4~7 ▶ 人と防災未来センターニュース
MiRAi
- 8 ▶ 情報ひろば

平成22年度予算

選択と集中による事業の重点化

① 基本方針

外部評価や兵庫県の行革方策を踏まえ、機構の中期計画を達成するため、「選択と集中」による事業の重点化を図るとともに、政策シンクタンクとして重点研究領域の明確化、研究交流等の充実強化を推進します。

② 主な取り組み

(1) 自主調査研究事業

研究調査本部では、機構のミッションを果たすために、「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」という基本課題を研究テーマの視点として持ちつつ、研究調査の推進を図るとともに、阪神・淡路大震災から丸15年が経過したことを踏まえ、まずはあの震災から得た教訓を生かした災害時対応のあり方や安全安心を基本的価値とする社会の仕組みづくりを明らかにする「地域の安全安心」とともに、被災地兵庫から全国に向けて発信する日本型福祉社会構築の制度設計を考える「長寿国につぼん活性化」、さらに、わが国が国際平和協力国家として歩んでいくための「国際社会への貢献」等を喫緊の課題として、分野横断的・実践的な政策研究を推進し、21世紀の成熟社会を先導する政策提言に取り組めます。

(2) 学術交流事業

従来の県内大学中心の講座に加えて、研究機関、名誉教授等兵庫にゆかりのある多彩な知的資源の蓄

積を活用した講座のほか、シンポジウムの実施、情報誌の発行等多様な媒体により、高度で専門的な知識を求める県民や国内外の研究者等へ、研究成果の発信・還元を行います。

(3) 人と防災未来センターの運営

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、そこから学んだ教訓を未来に生かすことを通じて防災に関する知識および技術の普及、防災政策形成の支援を行い、地震等の被害の軽減を図るため、実践的な防災研究、研修の充実等に取り組みます。

(4) こころのケアセンターの運営

トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する研究や研修、相談、診療などを実施するとともに、いのちの尊厳と生きる喜びを高める「ヒューマンケア」の理念に基づく人材育成を行います。

(5) 事業・人員の見直し

選択と集中を基本に業務運営の効率化を図り、人と防災未来センター、こころのケアセンターの管理運営事業について施設維持経費などを縮減します。

人員についても、県の行革方針に準拠し県派遣職員削減を行います。



震災を原点とした特色のある研究をめざして

ひょうご震災記念21世紀研究機構では、研究調査本部と人と防災未来センター、こころのケアセンターの各研究部で研究調査活動を行っており、平成22年度は次の内容の研究に取り組みます。

1 研究調査本部

(1) 地域の安全安心

- 安全安心社会の研究
- 交通政策体系と地域の安全
- 上下流連携による流域マネジメント

(2) 長寿国につぼん活性化

- 福祉社会実現のための新しい公共セクターの構築
- 福祉産業と地域活性化研究
- 女性・高齢者の就労支援と家庭支援および雇用の創出
- 長寿社会における介護・医療の適正化の方策

(3) 国際社会への貢献

- 災害対策をめぐる国際協力の仕組みづくり

2 人と防災未来センター

(重点研究領域)

- 災害初動時における人的・社会的対応の最適化
- 広域災害に向けた組織間連携方策の高度化
- 地域社会の復旧・復興戦略の構築

3 こころのケアセンター

- 災害、事故等、同時に一つの出来事に遭遇した集団を対象とするトラウマ・PTSDが与える影響およびその対応策の研究
- 災害、事故、犯罪被害者等、単発的な出来事に遭遇した個人を対象とするトラウマ・PTSDの治療法や対処法の研究
- 児童虐待、DV等、反復性のある出来事に遭遇した個人を対象とするトラウマ・PTSDの治療法や対処法の研究
- さまざまなストレスによって生ずる精神疾患の予防等の研究

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

「写真家 中山岩太『私は美しいものが好きだ。』レトロ・モダン神戸」

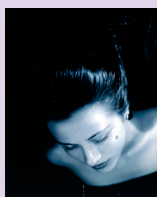
日本の芸術写真の地位を確立した兵庫ゆかりの中山岩太の展覧会。ほかにレトロ神戸の写真や映像など、合わせて約130点を展示します。

- 会期=2010(平成22)年4月17日(土)~5月30日(日)
- 観覧料=一般1,200円(1,000円)、大学生900円(700円)、高校生600円(500円)、65歳以上600円、中学生以下無料

※()は20人以上の団体割引料金

- 休館日=月曜(祝日の場合は翌日)
- 開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>



〈長い髪の女〉 1933年

JICA兵庫

☆アクセスは <http://www.jica.go.jp/hyogo/office/access.html>

☆イベントの詳細は <http://www.jica.go.jp/hyogo/event/index.html>

◆国際協力連続セミナー in JICA兵庫(全6回) ーともに考えよう!世界のためにできることー「国際協力の現場で何が起きているか?」「JICAって一体どんなことをしているの?」

国際協力の最前線で勤務経験のある講師が、現地での体験談を語ります。どなたでもお気軽にご参加ください。

■開催日=①4月19日(月)②4月26日(月)③5月10日(月)④5月17日(月)⑤5月24日(月)⑥5月31日(月)

■時間=18時30分~20時 ■講師=JICA国際協力専門員、外務省 ■テーマ=「わが国の政府開発援助」「貧困問題」「ジェンダー」「農村開発」など

◆教師海外研修募集説明会

概要説明と参加経験者の授業実践報告の後、個別相談を実施します。事前申し込み必要。

- 日時=4月18日(日)13時30分~15時30分
- 対象=兵庫県内の小・中・高校・特別支援学校在勤の教員
- 定員=40人(先着順)

◆インフィオラータこうべ三宮東2010

阪神・淡路大震災犠牲者の鎮魂のために1997年から始まったこのイベントも14回目を迎えます。JICA兵庫は昨年参加しており、研修員とJICAスタッフが「人・つなぐ」をテーマに、花を敷き詰めて国際色あふれる絵を描きます。花絵制作の様子やライトアップされた花絵を見ることもできます。見ることから国際協力を始めてみませんか?

■開催日=4月24日(土)、25日(日)※両日ともライトアップは18時~21時

■会場=三宮あじさい通り商店街(JR三ノ宮駅東、サンバル北側)

詳細は <http://www.infiolata.jp/>

◆食堂のご案内

1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでも利用できます。イスラム教徒のためのハラール食のほか、日替りの和食も用意しています。大好評の月替りエスニック料理(ドリンク付き700円)は、4月は、これまでにご紹介したエスニック料理から人気投票で第1位になったメニューをご用意します。

☆メニューの詳細と写真は

<http://www.jica.go.jp/hyogo/office/restaurant/index.html>

■営業時間=昼:11時30分~14時 夜:17時30分~21時

※各終了30分前ラストオーダー

◆広報展示室のご案内

JICA事業紹介に始まり、そこから見える世界の文化や諸問題をテーマにパネルや映像を展示しています。その他にも国際協力に関するさまざまな「見て、触って、体験できる」展示がいっぱいです。4月と5月は、「JICA兵庫大解剖」JICA兵庫の事業を写真パネルでご紹介します。

【主要展示物のご案内】

- ▶世界で活躍する兵庫県出身のJICAボランティア
 - ▶兵庫で学ぶ研修員の紹介 ▶市民参加メニューあれこれ
- 開室時間=11時~18時

●問い合わせ

JICAプラザ兵庫

TEL 078-261-0341 Eメール jicahic-plaza@jica.go.jp

<http://www.jica.go.jp/hyogo/office/plaza.html>

今年度のひょうご講座、 21世紀文明研究セミナーの開催結果について

兵庫県には大学や研究機関といった知の拠点が集積されています。学術交流センターでは、これら兵庫にゆかりのある知的資源を活用した高度な学習機会を提供することを目的に、「ひょうご講座」と「21世紀文明研究セミナー」を開催しました。

ひょうご講座

大学教養レベルの生涯学習講座として、平成21年度は神戸市中央区の兵庫県民会館で春と秋に23科目開講。分野は「国際」「経済」「環境」「健康」「自然科学」「芸術」「歴史・文学」で、各科目ともに同一曜日に週1回、それぞれ8～12回の連続講義を実施しました。

このうち、「独自科目」では1つの科目を複数の大学や研究機関、産業界等からなる講師陣で講義します。例えば、「日本のアジア太平洋関与の歴史と現在-21世紀への課題」は、定員40名に対し60名以上の方が受講する盛況ぶりです。国立民族学博物館須藤健一館長を中心に神戸大学や広島大学等の教授も加わり、日本とミクロネシア諸国、韓国、インドネシアとの関係を取り上げました。また、「気候変化に対する国内政策の処方～学界、NGO、産業界の立場から～」では、元県立大学副学長の天野明弘氏が毎回コーディネーターを務め、京都大学、NPO法人気候ネットワーク、(株)神戸製鋼所などの有識者による講義のほか、受講生との討議を行いました。

また、「オープンカレッジ」では参加・体験型のプログラムとして、大学キャンパスで実習・演習を取り入れた講義を毎週土曜計5日間実施しました。例えば、神戸夙川学院大学の「ニューツーリズムを担う人材養成講座」では、神戸北野の宗教文化施設を巡るフィールドワークやツアー作成実習を行うなど、大学のキャンパスで学生時代に戻ったような気持ちで勉強できると、受講生から好評をいただきました。

受講者には、県内の高齢者大学や他の学習機関で勉強された方など、さらなる知識の向上を目指す方がたくさんいます。平均受講率は8割で、受講生のアンケート結果では、約8割の方が「満足」、「ほぼ満足」、また、約9割の方が今後も「是非参加したい」、「できれば参加したい」と回答されています。平成22年度科目も既に多くの方からのご応募をいただいています（詳細は巻末「情報ひろば」の通り）。

21世紀文明研究セミナー

21世紀文明社会には、貧困や災害、環境変化、健康被害等さまざまな課題があり、これらを乗り越えて人類が平和に生活するための技術＝「平和の技術」が求められています。21世紀文明研究セミナーでは、安全安心なまちづくりや共生社会の実現など、阪神・淡路大震災が提示した近代文明の課題を取り上げ、HEM21をはじめHAT神戸に集積する国際・研究機関による知的ネットワーク（国際・人道支援協議会）等を活用しながら、課題解決に向けた方策を参加者とともに探索します。

主な参加者は高度で専門的な知識を求める研究者や、実践的な課題を抱える行政、NPO・コミュニティ関係者、県民等で、21年度は「安全安心」「共生社会」「防災」「環境」「芸術」分野からなる講座を、9月30日から2月26日にかけて計30回実施しました。

具体的には、安全安心では「ひょうごの安全安心」をテーマに多自然居住地域の活性化やNPOの役割、危機管理機能等について6講座、共生社会では「家族」をテーマに長寿社会、子育て、青少年等について6講座、防災では「広域災害への対応」をテーマに政府・自治体の役割、こころのケア、災害医療等について7講座、環境では「生物多様性」をテーマにコウノトリ、里山、海洋環境等について5講座、芸術は「美術館の現在」をテ

マにだまし絵、美術の力等について6講座行いました。

参加者は、分野に関係なくこれらの講座から関心のあるものだけを選び、HAT神戸等の研究者による発表を聴講できます。議論を深めるために教室をラウンドテーブル方式にし、講師によるプレゼンテーションの後に、参加者とのディスカッションを設けることにしています。これにより、参加者が課題解決に向けた手がかりを得るだけでなく、参加者の見解が発表者にフィードバックされることで発表者の研究にも寄与する点が期待できます。参加率は定員の約1.4倍でアンケート結果では、約9割から「有益であった」との回答をいただきました。来年度も同様の開催を予定しています。



今語る、15年の時間～災害メモリアルKOBÉ2010開催～



パネルディスカッション第1部

阪神・淡路大震災15周年記念事業の一環として、1月9日(土)、人と防災未来センターにおいて、災害メモリアルKOBÉ2010「今語る、15年の時間」が開催されました。

災害メモリアルKOBÉは、次世代の育成、世代間交流による語り継ぎなどを通じて、市民の防災力を高めることを目的として毎年開催しているもので、今年で5回目。今回は、「今語る、15年の時間」をテーマとし、阪神・淡路大震災15周年の節目として、震災当時、災害対応の最前線で活躍していた人が当時を振り返りながら語り合いました。

目玉の1つに小・中学生による作文発表があります。この行事に先立ち、2つの特別授業が神戸市内の2つの学校で行われました。神戸市立長田中学校では、11月21日(土)に2年生を対象として、震災を体験した教師と当時中学2年生だったその教え子たちが、避難所となった当時の学校や生徒たちの様子について語りました。一方、神戸市立春日野小学校では、12月3日(木)に5年生を対象として、2人の看護師が、生々しい医療現場の様子や看護学生としてボランティアに入った避難所の様子などを語りました。

この日は、特別授業を受けた感想を作文して、両校の児童・生徒が発表しました。

発表者の作文は、当時の大変

な体験や人と人とのつながりの大切さなどを訴えた語りをそれぞれの視点で受け止めていました。

後半に行われたパネルディスカッション第1部では、特別授業の講師らが出演し、当時を振り返りながら震災からの15年について語り合いました。

そこでは、子どもたちの作文から、震災で起こったありのままを語る、あるいは自分と同じ子ども世代の経験を語ることで現在の子どもたちにも効果的に伝わるとい

ことなどがあらためて確認されました。

続いて行われたパネルディスカッション第2部では、これまでの災害メモリアルKOBÉをはじめとする語り継ぎの活動を振り返り、これから先も震災の経験を風化させないために、被災地同士で語り合う、世代の違う人に語り継ぐことなどによって、新しい語り、新しい震災のとらえ方に結び付ける、またそのための場づくりが大切であることなどが話し合われました。

このほか、兵庫県のマスコットはばタンも参加した、「はばタンカーニバル」に防災の視点を取り入れてアレンジした防災ダンス、兵庫県立舞子高校生らによる耐震実験「ぶるる」の実演などのコーナーもあり、作文を発表した児童・生徒やその父兄、学生、防災関係者、その他一般の方など約300人が、楽しくも熱心に今後の震災の語り継ぎについて考える機会になりました。



防災ダンス

「兵庫行動枠組採択から5年—都市の減災に向けて」 ～減災シンポジウム ／国際防災・人道支援フォーラム2010開催～

世界の都市の防災体制について考える「減災シンポジウム／国際防災・人道支援フォーラム2010」が、1月14日(木)に神戸ポートピアホテルで開催されました。

基調講演では、最初に、国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) のヘレナ・モリン・バルデス次長が、国連防災世界会議で採択された防災活動の指針「兵庫行動枠組」の進捗状況などを説明。一部の国で、サイクロンや台風等による死者数が低減したと成果を報告するとともに、災害リスクの軽減には、保健衛生、教育、交通などのサービスを提供する地方政府が重要な役割を担うことから、同枠組は国だけではなく地方政府にも取り組んでほしいと訴えました。

続いて、河田恵昭・人と防災未来センター長が、「減災社会に向けた都市の課題」と題して講演。「都市への人口集中が途上国で急激に進むとともに、災害脆弱性の高い都市スラム地域が拡大し、人的被害が増大する要因となっている。途上国援助においては、防災・減災の効果を永続させる仕組みや経済余剰の創出等が必要である。また、

わが国の都市においても、適切な人口密度を保ち、情報ネットワークを充実させ、地方と都市の連続性を意識した対策が課題である」と論じました。

後半は、安藤尚一・国連地域開発センター防災計画兵庫事務所長のコーディネートにより、防災や環境の専門家、日本ユニセフ協会大使で歌手のアグネス・チャン氏などを交え、「災害に強い都市の構築」と題して、パネルディスカッションが行われました。

その中で、気候変動などによる目に見えない災害にも備えること、住民の地域防災力を高め、各家庭でも災害対応への判断力を磨くこと、地域版の兵庫行動枠組を構築し、地方自治体レベルで浸透させること、知識が命を助けることを理解すること、等の大切なメッセージが発信されました。

なお、UNISDRは、兵庫行動枠組の推進のため、2010年から2011年の2年間にわたり、

「災害に強い都市の構築」をテーマに国際的なキャンペーンを実施しています。今回のシンポジウムが、このキャンペーン活動を盛り上げる契機となることが期待されます。



2009年度 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

学校や地域における防災教育の取り組みを顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」(財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構、毎日新聞社、兵庫県共催)の表彰式と発表会を、1月10日、兵庫県公館(神戸市中央区)で開催しました。

約260人の方に参加いただき、グランプリ、ぼうさい大賞、優秀賞を受賞した各団体がその活動を発表しました。また、特別招待校の兵庫県立舞子高校、同佐用高校も報告を行いました。

今年度は、小学校、中学校、高校、大学の4部門に計80校・団体の応募があり、委員9人(委員長=河田恵昭・人と防災未来センター長)による選考の結果、各部門の最優秀賞にあたる「ぼうさい大賞」4点(うち1点はグランプリ)と優秀賞4点、奨励賞6点、被災地での活動を対象にした「はばタン賞」3点、安心安全なまちづくりを目指す「だいじょうぶ」キャンペーンにちなんで防犯活動にも応用できる取り組みを対象にした「だいじょうぶ賞」1点が選ばれました。受賞校・団体は次の通りです。

ぼうさい大賞

グランプリ

水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊(山口県)
徳島市津田中学校
岩手県立宮古工業高校
立命館国際部国際協力学生実行委員会(京都市)

優秀賞

アトリエ太陽の子(神戸市)
岩手県釜石市立釜石東中学校
兵庫県立淡路高校
地球防災隊(神戸市)

奨励賞

長野県中条村立中条小学校
静岡県藤枝市立藤枝中央小PTA
和歌山県紀の川市立荒川中学校
愛知県立日進高等学校
滋賀県立彦根工業高校都市工学科
東北福祉大学生ボランティアサークル「Withボランティア」(仙台市)



はばタン賞

兵庫県芦屋市立精道小学校
宮城県丸森町立丸森東中学校
震災犠牲者聞き語り調査会(神戸市)

だいじょうぶ賞

大分県立佐伯豊南高校生徒会

グランプリを受賞した「水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊」の活動を紹介します。

「水を通じて、我がまち・防災を学ぶ」

2005年から、防府市内の子どもたちが集まり、川・水を通じて自分たちのまちを知ろうとダム見学や川の清掃活動をしてきました。子どもたちの声をきっかけに、07年から災害についての学習を始め、昨年は聴覚障害のある人とコミュニケーションが取れる手話「ぼうさいサイン」を考案しました。

そんな中、09年7月21日、自分たちの住む市が豪雨に見舞われました。子どもたちは、災害ボランティアセンターの手伝いを経験し、土のう作りにも参加して、被災者の話を聞きました。土砂の搬出ボランティアにかかわった聴覚障害がある人からは、「作業時にぼうさいサインが役立った」という報告も聞きました。子どもたちは、現場で耳を傾けることで、障害者が必ずしも要援護者というわけではなく、支援の力として共に活動し合う仲間であることを学びました。



「ぼうさいみらい子ども文庫」がオープンしました



阪神・淡路大震災15周年にあたり、国際ソロプチミスト神戸より団体認証40周年事業として「ぼうさいみらい子ども文庫」が寄贈され、1月9日(土)に贈呈式が行われました。

この文庫は、震災の経験と教訓を、次代を担う子どもたちに伝えるために設置されました。センター西館5階資料室にあり、窓からは六甲の山々が見渡せます。くつろぎながら気軽に震災資料に触れ合えるよう、震災や防災に関する絵本、ビデオ、防災体験ゲームなど多数そろえています。幼児でも楽しめる防災かるたや、防災すごろくなどもあり、お子さんの成長に合わせた防災学習をすることができます。

5階資料室は無料ゾーンです。地震に関する専門図書から「ぼうさいみらい子ども文庫」まで、幅広い蔵書をそろえていますので、ぜひ一度足をお運びください。



管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

財ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	高校・大学生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、兵庫県内在住の65歳以上の高齢者は上記の半額

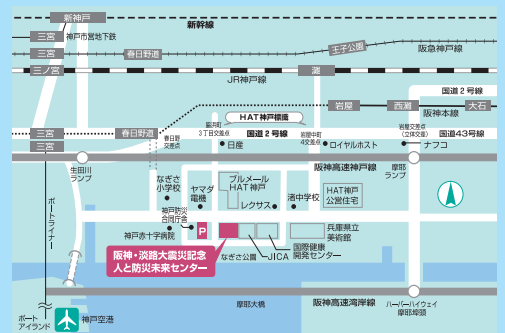
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休

交通

- 鉄道**
- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - 阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- 三宮駅前から約15分
- 車**
- 阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - 阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - 阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場(普通車100台) ●バス待機所(予約制/無料)あり



学術交流センター

平成22年度「ひょうご講座2010」 (ひょうご講座、オープンカレッジ) 受講者募集

県内の大学や研究機関などと連携し、大学教養レベルの生涯学習講座として「ひょうご講座2010(ひょうご講座、オープンカレッジ)」を開催します。

▶ 募集期間＝各開講日の1週間前まで。(先着順受け付け、定員になり次第締め切り)

■ひょうご講座

県内の大学や研究機関をはじめとする多彩な講師陣による講義(独自科目)および県内各大学主催による出前の公開講座(学外科目)です。

▶ 時間＝平日(火～金曜)18時30分～20時、土曜13時～14時30分(第1部)、15時15分～16時45分(第2部)

▶ 日数＝8回～12回(1回あたり90分講義。週1回、同一曜日に実施)

▶ 受講料＝1万円(8回)、1万2,000円(9・10回)、1万5,000円(11・12回)

▶ 定員＝1科目あたり約40名

▶ 開講場所＝兵庫県民会館(神戸市中央区)

▶ 春期開設科目

科目名	日程・回数
現代世界を読む2010:政権交代は何をもたらしたか	5/11(火)～10回
自然共生技術の現状と展望	5/11(火)～8回
メディアを読む、メディアで考える、阪神間の文化	5/12(水)～8回
人と野生動物との共存を目指して ～兵庫の現状と取り組み～	5/12(水)～8回
食べ物と身体から考えた生活習慣病予防対策	5/12(水)～9回
より良い健康生活への知恵	5/13(木)～8回
仏と日本人	5/14(金)～12回
災害事件後の心のケア	5/14(金)～12回
上海万博と中国の経済社会	5/15(土)～10回
オバマ政権とアメリカの経済と社会	5/22(土)～9回
文学空間と地理空間～文学的観光への試み～	5/15(土)～9回

■オープンカレッジ

大学の施設を使用して、実習やゼミナールなど参加・体験型の多彩なプログラムを提供します。

▶ 受講料＝2万円

▶ 定員＝1コースあたり約40名

▶ 開設コース

コース名	日程・日数
神戸大学コース 心理テストを通じて知る「こころ」の不思議 ～自分の知らない意識と無意識	2010年 10/16(土)～ 毎土・5日間
兵庫大学コース ポスト団塊世代の新たな高齢者像 ～コミュニティづくりのリーダーとなるために	2011年 2/5(土)～ 毎土・5日間

●問い合わせ

同機構 学術交流センター

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

http://www.hyogo-al.gr.jp/kouza/



平成21年度オープンカレッジ
神戸夙川学院大学コース
「ニューツーリズムを担う人材養成講座」フィールドワーク受講風景

研究調査本部

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 「研究成果報告会」

平成21年度の研究成果について、行政機関等における政策形成への活用と新たな政策課題の抽出を図るため、外部有識者、政策担当者、県民などとの意見交換を行います。

▶ 日時＝4月22日(木)10時～16時30分

▶ 場所＝兵庫県民会館(神戸市中央区)

■タイムスケジュール

第一分科会「安全・安心なまちづくりを考える」(10階福の間)

時間	研究員氏名	研究テーマ
10:00～10:30	林 万平	ひょうご安全安心白書の企画
10:30～11:00	林 万平	災害対策をめぐる国際協力の仕組み(ネットワーク)
11:00～11:30	紅谷 昇平	自治体のオールハザード危機管理体制におけるバックアップのあり方
11:30～12:00	山崎 亮	多自然居住と自治体の低炭素社会への取り組み
13:00～13:30	楠 綾子	オーラルヒストリーの体系化・共有化による震災教訓の発信
13:30～14:00	楠 綾子	災害対策をめぐる国際協力の仕組み(戦略会議)
14:00～14:30	桜井 靖久	安心の経済循環と新しい賑わいの研究
14:30～15:00	岸本 達也	まちづくりの手法の住まい再建
15:00～15:30		全体質疑

第二分科会「共生社会の実現」(9階902号室)

時間	研究員氏名	研究テーマ
13:00～13:30	成瀬千枝子	親学び応援施策のあり方
13:30～14:00	成瀬千枝子	青少年の生き方を支える「家族の絆」の構築戦略
14:00～14:30	越智 祐子	「子どもの冒険ひろば」事業に関する研究～その利用状況及び効果と今後のあり方～
14:30～15:00	越智 祐子	共生社会実現のための地域力の指標化
15:00～15:30	村上 寿来	被災地における高齢者活動(老人クラブ等)の復興経験と現状の検証
15:30～16:00	阿部 真大	長寿国にっぽん活性化戦略～高福祉社会の構築をめざして～
16:00～16:30		全体質疑

●問い合わせ

同機構 研究調査本部

TEL 078-262-5570 FAX 078-262-5593

Eメール research@dri.ne.jp

Hem21NEWS vol.20

平成22年3月発行



(財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
(人と防災未来センター)

http://www.hemri21.jp/

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580

FAX 078-262-5587

●研究調査本部

TEL 078-262-5570

FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050

FAX 078-262-5055

●学術交流センター

TEL 078-262-5713

FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください



企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷・出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

小説、自伝、詩集など
あなたがお書きになった原稿を
ご予算に応じた自費出版プランで
ご提案いたします。
また、各企業の記念誌等の
企画・プロデュースも
いたしております。
どうぞお気軽にご相談ください。

ホームページでは
作成までの流れや
見積見積も
ご覧いただけます

株式会社 神戸新聞総合印刷

☎078-362-7180

本社/〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7

http://www.kobpen-printing.co.jp/

印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。